

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901597		
法人名	医療法人社団 春光台クリニック		
事業所名	春光台クリニック グループホーム 荻番館		
所在地	北海道旭川市春光台3条3丁目5-32		
自己評価作成日	平成30年10月15日	評価結果市町村受理日	平成30年11月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2018.022.kan=true&amp;JigyosyoCd=0172901597-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2018.022.kan=true&amp;JigyosyoCd=0172901597-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理念にも掲げている、笑いある生活を目標に、明るい雰囲気の中笑顔と会話を大切にしている。  
 ・母体がクリニックの為、24時間体制で医療面の対応が出来、入居者、家族、職員共に安心できる。  
 ・公園、公民館、スーパー等豊富な地域資源に恵まれており、隣にある保育園との交流では、入居者の癒しの時間となっている。  
 ・年間行事が豊富で、季節ごとに企画し、外出が難しい冬でも室内での行事が気分転換になっている。  
 ・職員同士、なんでも話し合える関係性があり、働きやすい職場である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「春光台クリニック グループホーム」は、旭川郊外の自然環境に恵まれた静かな住宅地に立地している。近隣には公園や保育園があり、子供達や近隣住民と交流しながら家庭的な生活が継続出来る環境である。中庭を中心とした平屋建ての2ユニットのグループホームで、居間や食堂は広々とした開放感のある造りで落ち着いて過ごせる室内になっている。管理者と計画作成担当者を中心に前回の課題に積極的に取り組み、全職員で理念を共有しながら一人ひとりの利用者の意向に沿った細やかな対応を行っている。利用者担当職員が行う毎月のモニタリングを3か月ごとの全体モニタリングに活かし、個々に応じた適切な介護計画を作成している。家族交流会や家族連絡網を作成して、家族間での情報交換ができるような取り組みも行っている。日常的な散歩の他、個別外出や数人での外出など年間を通して積極的に出かけている。職員は、一人ひとりの利用者に優しく寄り添いながら畑仕事や花壇整備、食事の支度など自宅のような暮らしが継続出来るように温かな支援を行っている。管理者と計画作成担当者は、職員の意見や提案に耳を傾けて働きやすい職場環境を整備しており職員の定着率も高く、継続して安定したケアが行われている。利用者との微笑ましい笑い声が飛び交う、明るく家庭的なグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(壱番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が考えた理念であり、携帯用を職員に配布していつでも確認し、ケアの見直しにいかしている。また、玄関に理念が掲示されており、来訪者にも見て頂けるようにしている。職員もすぐに目に入る事で意識づけにもなっている。	「家族や地域の方とのふれあいをもてること」という地域密着型サービスを意識した内容を含む、事業所独自の理念を作成している。職員は、行事の立案時やケアの振り返り、ミニテストなどで再認識することで理念に対する理解を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、隣接している保育園とは行事を通じて交流が盛んであり、避難場所としても提供している。近隣の住民からは野菜や花の提供もして頂ける事もあり、夏祭りや花火大会では、地域の方の参加して頂き交流もある。	保育園の運動会や生活発表会の見学に出かけたり、事業所の七夕や敬老会に園児が来訪して利用者と手遊びやゲームをしている。歌や踊りのボランティアも訪れている。今後は、地域の文化祭に利用者の作品出展も考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は認知症サポーター養成講座に参加し普及活動に努めている。運営推進会議で認知症やグループホームについて盛り込んだ内容を行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域・包括・家族に呼びかけている。認知症の人達への理解や関わりを深めて頂く為、行事やレクリエーション、食事などを一緒に参加して、活きた声を聴いて頂き、その時出た意見や感想は職員のモチベーションアップに繋がっている。	広報紙で会議の開催と会議内容を全家族に伝えていく。外部評価報告や避難訓練、虐待に繋がるストレスケアについて取り上げて、会議の参加者もストレスチェックをしている。今後は、ミニ勉強会などの資料も家族に送付する意向である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明点等については電話、直接窓口にて問い合わせをし、その都度記録に残している。実地指導の際には、実状を伝え口頭指導を受けた所は、事業所内会議で話し合った。	管理者は、提出書類を持参した時に担当者と情報交換したり、分からないことがあれば尋ねている。制度の変更内容について確認したりアドバイスを受けている。保護課の職員が来訪した時は、本人の状況を伝えながら相談することもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて定期的に身体拘束について理解を深めている。玄関の施錠に関しては、ご家族への説明、理解の下、人感センサー設置、見守りが行き届かない場合、夜間、入居者の状態に限り必要最低限の施錠を行っている。	「身体拘束適正化に関する指針」を新たに作成して3か月ごとに勉強会を実施し、具体的な禁止行為について内部研修で確認している。不適切な言葉かけについても職員間で注意し合える関係性を築いている。拘束に繋がらないような対応として、ベッドの高さを調節したこともある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ストレスは虐待に繋がる事から、ストレスとは何か溜めない為には、どうするか等の知識を内部研修で身に付けた。職員間のコミュニケーションを密に取り、気付いた事を言い合い虐待に繋がらないケアを行っている。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(壱番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている入居者がいる。成年後見制度の研修参加し、研修内容を事業内会議で報告し、制度の理解に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を設け、ゆっくりと分かりやすく説明を行っている。質問等、その都度確認の上進めている。介護報酬改定時など契約内容が変わる時も必ず説明を行い同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会で、質疑応答の時間を設けたり、家族だけで話し合いの場が必要か確認している。普段より家族と、話やすい関係性を築いている。	来訪時に日常の様子を伝えて意見や要望を聞き取り、連絡ノートに記録して定期的に個別の「家族記録」に整理している。今後は職員の気付きなども記録に残し、更に家族の思いに寄り添いたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の会議の他、必要時、その都度会議を行い、意見交換す場があり、管理者とも話しやすい関係性が出来ている。	管理者や計画作成担当者は、普段から各職員の意見や提案を聞き取り、一人ひとりの利用者に応じた適切なケアや運営に反映させている。職員は、会議などでも活発に率直な意見交換が出来るので働きやすい環境であると感じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休みや家族事情、体調等考慮した勤務になっている。昇給、賞与、資格取得時の補助がある、資格に見合った昇給もある。残業にならないように、仕事分担などの配慮がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画書があり内部研修を定期的に行っている。外部研修についても参加案内、参加時の勤務調整も行っている。研修参加後は、研修記録を作成し全職員に周知が出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は外部研修にて同業者とのグループワークがあり、悩み事等を話す事で解消したり、相手の話を聞く事で視野が広がるなど交流の場になっている。管理者は連協や包括の研修部会に所属しており、相談できる関係性が築けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(巻番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりと話す時間を設け、本人の気持ちを引き出し、信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の面談では、家族の話しを傾聴し、話しやすい環境作りと十分な時間を取り、今までの経過から困っている事、希望、質問等、安心できるまで話合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み段階で緊急性がある場合や主訴に応じて、他の施設やサービスを案内している。申し込みには至らない場合も相談として受け入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共に過ごす中で、その人に合った事を把握し、円滑な関係性が築けるよう支援し、互いに協力し助け合える場になるよう努めている。感謝の気持ちを言葉に出し合えるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や通信にて日常の様子を日頃より伝え、情報の共有に努め、状況に応じて家族からの協力も得ている。家族と共に参加出来る行事もあり、良い関係性、話しやすい環境作りを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去の生活の様子を把握している。来訪者も多く見られ、その際には、必要時職員も間に入るなどし、コミュニケーションが円滑に取れるようにしている。	近所に住んでいた方や宗教関係の知人などが来訪することもある。職員と一緒に自宅を見に行ったり、馴染みのお店に食事に出かけている。地元出身の方が多いため、公民館や近隣の公園、散歩などに出かけて知人と会話を交わしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や関係性も把握し、安心して過ごせるよう、職員が間に入ったり、席の配慮、行事に参加しやすい工夫等、話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(巻番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援等に対応できる体制が整っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話、表情、本人の意向等を記録し、支援に反映。表出するのが苦手な方には、言いやすい環境や場面作りにて把握できるよう努めている。家族からの情報も記録し情報共有している。	利用開始時にセンター方式シートを活用して以前の生活状況を把握している。3か月ごとにアセスメントシートを更新しているが、趣味や嗜好などの情報の更新が十分とは言えない。	アセスメントシートの「特記事項」欄を活用して、趣味や嗜好などの情報も更新するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談で過去の情報や他施設利用状況等を把握し、入居後の生活に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録で1日の様子を把握しており、また食事水分排泄等のチェック表にて健康状態を管理、個々に合わせた作業や運動、気分転換、休養などを提供している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞き、職員、計画作成担当者共同して作成。状態変化があれば期間に関係なく都度更新。家族に説明し同意を得ている。	担当職員が実施する毎月のモニタリングを基に、3か月ごとに全体モニタリングを実施して介護計画を作成している。日々の記録に、介護計画に沿った具体的な変化などの記録も充実させてモニタリングに活かしていきたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録はケアプランと連動させ、毎日評価できるようにしている。一日の様子も一緒に記録するので、情報共有し、個別ケアに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療法人ならではのサービスとして、緊急時に対応できるよう医療物品や薬など常備されている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	読書が好きな方は公民館の図書館を利用し、楽しみの1つとなっており、公民館の文化祭見学にも足を運んでいる。地域のSOSネットワークに加入し、離設者が出た際は協力体制が整えられている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に確認しているが、医療母体の医師をかかりつけ医に希望される方が多い。専門医の受診も本人や家族の希望に応じている。	専門医の受診は家族対応を基本としているが、状況に応じて書面で健康状態を伝えたり職員も同行して適切な医療が受けられるように支援している。診察結果は「受診・往診記録」に記入している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(杏番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師が来訪の他、日常的な相談、報告し記録にて情報共有している。業務日誌を毎日母体のクリニックにファックスし、看護師がチェック、医師に報告をして必要時には受診など素早い対応を取る事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を持参し、ホームでの様子や状況を細かく伝えている。定期的に面会に行き、状況を把握、早期退院に向け準備を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を明確に行い、意向を確認している。その時々で気持ちの変化があるので、都度意向を確認し、その思いに添えるようにしている。	利用開始時に「重度化した場合における指針・看取り介護に関する指針」に沿って、事業所として可能な対応について具体的に説明している。希望に応じて看取り対応も行っており、開設以来数名の看取りも実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルがあり、事務所に掲示されている為、必要時確認しながら対応する事ができる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施。発電機・水・食料を備えている。地域に職員が住む為協力体制が築けている。	防災設備会社や消防署の協力を得て、昼夜の火災を想定した避難訓練を年4回実施し、地震時の具体的なケア別の対応について職員間で意見交換して記録に残している。防寒対策としてユニットごとに暖房器具を整備する意向である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報に記載された物は、事務所の鍵のかかる棚に保管し、個人情報の研修も行っている。個々の性格、意向に合わせた声掛けをしている。	言葉遣いで気になる時は職員間で注意し合い、親しみを込めて利用者に話しかけている。申し送りや記録する時はプライバシーに配慮して行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事メニューやおやつ、飲物等、好みの物を選択できるように選択肢を用意している。言葉では意思表示できない場合でも表情や行動から思いを汲みとるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望や状況に合わせて作業や気分転換、休養や好きな場所でゆっくり過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類の選択や、外出や季節の行事には職員と一緒におしゃれを楽しんでいる。馴染の訪問美容師とは、髪形やカラーなど気楽に相談できる関係を築いている。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(壺番館)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑へ収穫に行き、取れた野菜で何が作れるか一緒に考えている。季節の素材を取り入れた食事、献立、調理、味付け、盛り付け等、その方の出来る作業と一緒にやっている。	利用者と相談しながら献立を考え、野菜を切ったり盛り付けなど調理全般に利用者も参加している。タコ焼き、カボチャ団子、漬物づくりを職員と一緒にいい、屋外で焼き肉やサンマ焼きを楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理マニュアルに添って塩分やカロリーに気を付けている。栄養状態を把握し、加算も取っている。ムセる方には形態、姿勢など注意し、水分量が少ない方には、好みの飲物を細目に提供。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人が磨いた後に歯間ブラシ、舌ブラシを使い、磨き残しがないようにしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表にて個々の排泄状況を把握し、必要に応じて声掛けや誘導を行っている。これまでの習慣と排泄状況を考慮しながら、トイレ誘導のタイミングを計るなどし、すぐに紙パンツにしない取り組みをし、検討、見直しを行っている。	利用者の状態に合わせて、布パンツ、パッド使用などで、昼夜ともトイレでの排泄を支援している。自力で出来る利用者が多く、確認する程度で自立度が高い。おむつを使用する場合も、検討を重ねながら徐々に外し、改善した事例もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	きな粉ヨーグルトや食物繊維の多い食品を取り入れ自然排便を促す取り組みを行っている。日常生活の中に適度な運動を取り入れている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や希望や羞恥心に考慮しながら、週に2~3回程度の入浴を行っている。拒否時には時間を変える、対応する職員を変える、次の日に繰り越すなどの工夫をし入浴に繋げている。ゆっくり職員とコミュニケーションがとれるの場となっている。	いつでも入れる態勢で、利用者の意向を聞きながら午前午後の時間帯に入浴を支援している。羞恥心に配慮して同性介助で対応したり、入浴を拒む方には声かけを工夫して入浴に繋げている。湯船に入り職員との会話を楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	作業や体操などで日中の活動量を上げる事で、良眠に繋がっている。寝具調整や温度、湿度にも配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必要時、薬の副作用や服薬の仕方を、薬剤師に相談。状態に応じて、内服しやすい形態となるよう受診時相談している。セットから内服まで複数の職員が確認を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせて、編み物、パズル、読書、歌番組などを楽しんだりしている。レクリエーション、余興、外出など行事提供し、気分転換へ繋がっている。			

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(巻番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会となるよう身体や精神状態、趣味や趣向に合わせた行事を計画している。希望があればドライブや散歩に出たり、家族と外出、外泊もしている。	普段は公園の散歩や玄関先でお茶を楽しんだり、毎月の外食行事で好きな料理を選んでいる。事業所行事で紅葉見物や動物園に出かけたり、「田んぼアート」の見学など年間を通して積極的に外出している。冬季も雪だるまを作り外気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者は家族同意の下財布を所持、支払いが出来るようにしている。ホーム管理しているお小遣いは毎月家族に収支報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室に電話回線があり、希望があれば設置する事が出来る。事務所の電話も希望時に使用して頂いている。携帯電話を持っている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面キッチンの為、食事作りの様子や匂いを感じる事が出来る。館内には季節に合わせた飾り付けや、リビングの大きな窓から季節の移り変わりを感じる事が出来る。湿度、温度管理している。動線を確保しつつ、居心地良く過ごせるよう入居者の状態に応じて環境整備している。	玄関を中心に左右にユニットが分かれており、居間の大きな窓から中庭の花壇や畑、樹木が見渡せる。居間には観葉植物を配置し、収納ラックには本、レクリエーション用の道具などが置かれている。壁には利用者で作った大きな干支の作品を飾り、季節の装飾など居心地よい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時過ごしたい場所で自由に過ごせる様、ソファなど配置。窓際に設置した椅子とテーブルでは、1人で外を眺めたり編物したりと、自然光の中で趣味や作業を行う事が出来る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や馴染の家具、小物、仏壇、自分で作った作品などを置き居心地良い空間を作っている。転倒に繋がるような配置にならないよう注意している。	園児からのプレゼントのペンダントを表札にかけている居室もある。室内には、クローゼットと加湿器や温湿度計を備えている。家具類や小物類、小さな仏壇を配置し、ぬいぐるみ、本、家族の写真などを飾り本人が安心できる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	希望者には自室で洗濯物を干せる環境がある。衣類の引出しには明記、居室前には表札を付けている。車椅子や歩行器使用の方が自由に動けるよう、動線の確保をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901597		
法人名	医療法人社団 春光台クリニック		
事業所名	春光台クリニック グループホーム 貳番館		
所在地	北海道旭川市春光台3条3丁目5-32		
自己評価作成日	平成30年10月15日	評価結果市町村受理日	平成30年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念に掲げている「笑いある生活」を目標に、明るい雰囲気の中、笑顔と会話を大切にしている。</li> <li>・母体がクリニックの為、医師看護師との連携が密で、緊急時にもすぐに対応でき、入居者家族職員とも安心できる体制となっている。</li> <li>・年間行事が豊富で季節ごとに企画し、外出が難しい冬場でも室内での行事が気分転換になっている。</li> <li>・公園、公民館、スーパー等、豊富な地域資源に恵まれており、隣にある保育園との交流では、入居者の癒しの時間となっている。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172901597-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172901597-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年10月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない		○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が案を出し合い決めた理念があり、ミニテストや職員に配布している理念の用紙を見る事で、再確認している。行事を行う時の目的にも理念を組みこんでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに出向いたり、近隣保育園とお互いの行事に参加し合うなど、行事を通して交流の場としている。町内会に所属している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は小中高校での認知症サポーター養成講座のファシリテーターを行っている。運営推進会議では、認知症やグループホームについて盛り込んだ内容で行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成員の方や家族に参加を呼びかけ、参加して頂いている。外部評価の結果や、避難訓練の様子、行事の様子を見学し、グループホームを知って頂く機会となっている。また、そこで出た意見や感想は職員のモチベーションアップになっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導の際には実情を伝え、口頭指導を受けた所は事業所内会議で改善するよう話し合った。疑問点があれば市に電話確認し、記録を残している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についての研修を行い、拘束にあたる行為を再確認している。玄関にはセンサーを設置し、施錠していないが入居者が落ち着かない時や、職員が少ない時間帯には施錠している。転倒リスクの高い方が、「起きたい」と思った時にすぐ対応できるよう、センサーを設置している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ストレスは虐待につながる事から、ストレスとは何か？ためない為にはどうするか？等の知識を内部研修で身につけた。職員同士がコミュニケーションを密にとり、虐待につながる行為がないか、実際に虐待が行われていないか、言い合える環境作りをしている。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度の利用がないが、今後必要性が出た時の為に、外部研修に参加し、研修内容を事業所内会議で報告し、制度の理解に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を一項目ずつ説明し、質問などないか確認しながら行っている。介護報酬改定時など契約内容が変わる時も、必ず説明を行い、同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会で質疑応答の時間を設けたり、家族だけで話す時間が必要か確認している。普段から疑問質問あれば、いつでも何でも話せるような関係作りを心掛けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も参加する月一回の会議、必要性のある時はミニ会議を行い、職員間の意見交換の場があり、業務内容の改善に繋がっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休みが取りやすく、病気などの急な休みにも柔軟に対応が出来ている。昇給・賞与・資格取得時の補助がある。残業にならないよう、仕事分担などの配慮がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内や受講できるように勤務調整している。研修計画書があり、内部研修も定期的に行い、職員が学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で他事業所とのグループワークがあり、困難事例や悩み事を話す事で解消したり、相手の話を聞く事で視野が広がる等の交流の場となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係性を築く為に会話をたくさん持ち、不安や要望を聞き出すようにして、聞き出した内容は職員間で共有し、必要時はミニカンファやモニタリングで話し合い、不安等が軽減できるようなケアに繋がっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の面談では、家族の話しを傾聴し、話しやすい環境作りと十分な時間を取り、今までの経過から困っている事、希望、質問等、安心できるまで話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み段階で、緊急性がある場合や主訴に応じて、他の施設やサービスを案内している。申込には至らない場合にも、相談として受け入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの得意分野である家事や作業を一緒に行なう事で、生活の知恵を教わる機会になっている。作業後には必ず感謝の言葉を掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の通信や来館時にホームでの様子等伝えている。行事では、家族が踊りを披露したり、講師となってコースター作りを教えてくれたり、都度お手伝いをしてもらう事で、入居者の楽しみごとと一緒に行動する関係となっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段から入居前の生活の様子を把握している。入居前より通っていた馴染みあるお寺の参拝・お墓参りに家族と出掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考慮し、一緒に行う作業の提供や行事や食事の席を決めている。又、困っている入居者に対し教えてあげていたり、手を貸している時は、危険が無ければ見守り、入居者同士の関係作りに役立っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援などに対応する体制が整っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情から思いを汲み取り、記録に記載し職員間で共有している。伝える事が困難な場合は、過去の生活を知っている家族から聞き把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から生活歴等の情報や、入居前に関わっていた関係者から情報を頂き、入居後の生活に役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事・水分摂取量、排泄状態、バイタルや一日の様子を記録し、共有。毎日のコミュニケーションを通じて、日々の状態との違いを判断し、それに合わせたケアを提供している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を聞き出し、職員・計画作成担当者が共同して作成。状態変化あれば期間に関係なく都度更新。家族に説明し同意を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録はケアプランと連動させ、毎日評価できるようにしている。気付いた事について何でも書ける連絡ノートがある事で、個別ケアに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療法人ならではのサービスとして、急変時すぐ対応できるように頓服薬や点滴セット、心電計等を備えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパー・公園・公民館等、豊富な地域資源の中で、散歩中には挨拶を交わしたり、町内のお祭りでは見学場所を確保してくれる等、顔見知りの関係となっている。地域のSOSネットワークに加入しており、離設者が出た場合は協力体制が整えられている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に確認しているが、医療母体の医師をかかりつけ医に希望される方が多い。専門医の受診も本人や家族の希望に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の業務日誌は、母体のクリニックにFAXで報告し、受診の必要性がある場合看護師から連絡が来る。1Wに1度看護師が訪問し入居者の状態を確認。同法人の看護師の為、ちょっとした事でも気軽に相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を提出。面会時に病棟Nsに状態確認をしている。MSWとも連絡を取り、早期退院に向けた情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に、終末期や重度化についての説明をし、家族の意向を確認している。その時々で気持ちの変化がある事なので、都度意向を確認し、その思いに添えるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルがあり、事務所に掲示されている為、必要時確認しながら対応する事ができる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施。発電機・食料・水などを備えている。地域に職員が住む為、協力体制が築けている。		

**Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格やその時の場面に合わせて、言葉遣いにメリハリをつける事で相手を敬ったり、親しみを持ってもらえる様に接している。個人情報や事務所で管理し、外部の方の目には触れないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事メニューやおやつ、飲物など好みの物を選択できるように選択肢を用意。選択が難しい方へは、普段の会話の中からその方の好き嫌いを把握し、自己決定の際には意思に添える様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	倦怠感や眠気が出た時は、その状態に合わせて、離床や食事の時間をずらしている。散歩の希望があれば、散歩に出るなど柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを気遣えるよう、「髪伸びたね」「その服いいね」等日常的に会話している。訪問理美容時には、好みのカットやカラーを希望、外出時にはお化粧したり、服装もお出掛着でおしゃれ出来る様に声掛けや介助している。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で育った食材を一緒に収穫し調理したり、何が食べたいかを聞き献立に取り入れるなど、出された物をただ食べるのではなく、作成段階から食事に関われるようにしている。調理や後片付け等も個々の能力に合わせて行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理マニュアルに基づき、塩分やカロリーに気を付けるよう心掛けている。摂取量はチェック表に記載。栄養状態を把握し、栄養スクリーニング加算もとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人が磨いた後に歯間ブラシや舌ブラシを使い磨き残しが無いようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表に排泄状況を記録し、職員間で共有。自力でトイレに行く事や訴える事ができない方は、そわそわしている等のトイレサインを見逃さずトイレ誘導して失禁を減らしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	きな粉入り牛乳や青汁、ヨーグルト・食物繊維の多い食べ物など提供。毎日の体操も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2~3回一人ずつ入浴する事で、ゆっくりと会話を楽しむ時間となっている。羞恥心のある方には同姓介助にしたり、午後入浴を希望される方には、できる限り午後からの入浴としている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室の温度や湿度はこまめに確認し、季節に合わせた寝具、個々の状態に合わせて褥そう予防マット等使用。毎日の体操や作業する事で、活動量が上がれば良眠に繋がっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更があった時は業務日誌に記載し、職員間で共有。薬のセットから内服までの間に数人の職員で確認し、薬の空袋も飲み残しがないか確認してから破棄している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	写真が好きな方はカメラやプリンターを居室に置き、趣味を継続している。家事や畑作り縫物などそれぞれが出来る事を役割とする事で、生きがいとなっている。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会となるよう、身体や精神状態・趣味や嗜好に合わせた行事を計画している。行事以外にも、希望があればドライブや散歩に出たり、家族と果物狩りやお寺に出掛けている方もいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者は家族同意のもと、財布を所持。ホームで管理しているお小遣いは、毎月家族に収支報告している。買物時は自分で支払いができるように側で見守り、必要時お手伝いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話回線はあるも、希望者はいなく、必要時はホームの電話を使用している。携帯電話を所持している方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの大きな窓からからは季節の映り変わりをを感じる事ができ、ホーム内も造花等を使い季節に合わせて飾付けしている。カレンダーや時計も見やすい物とし、温度や湿度にも気を付けている。車椅子や歩行器を使用している方が通りやすいように動線を確保した家具の配置としている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気が合う合わないを把握した上で食事の席を考慮。ソファーや食卓イスを配置し、その時過ごしたい場所で自由に過ごせる様になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・植木・ラジオ等、居室で思い思いに過ごしたり、趣味を楽しめる物を置いている。仏壇や、馴染みある鏡台・チェスト等の家具を置いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドから自力で立ち上がる事ができる様に手すりや、足元に滑り止めマットを使用。歩行が困難な方が安全に自力で離床できる様に床に布団を敷いている。。自室のタンスには内容を表記したり、トイレや自室の表札も目線の高さになっている。		

目標達成計画

事業所名 春光台クリニック グループホーム

作成日：平成 30年 11月 5日

市町村受理日：平成 30年 11月 16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	趣味や嗜好などをアセスメントシートに記録しているが、十分でない	① アセスメントシートに項目を作り、情報更新を行う	<ul style="list-style-type: none"><li>* 特記事項欄に、「得意な事・苦手な事・性格など」の項目を作る（一人ひとりの「今できる事」に目を向け、趣味に限定しない項目とした。）</li><li>* 嗜好品については、現状通りそれぞれの欄に記入（飲食物の好みについては食事の欄、たばこ・アルコールについては特記事項の欄）</li><li>* 上記について、アセスメント担当者が再確認し、ケアプラン更新時、アセスメントする</li></ul>	2年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。